三重県の文化財保護

—昭和63年度—

1989.3

三重県教育委員会

例　　言

1．本書は、三重県教育委員会が昭和63年度に実施した指定文化財等の保護事業を中心にまとめたものである。

2．国指定史跡斎宮跡及び埋蔵文化財の保護については、それぞれ年報を刊行しているので参照されたい。

3．市町村新指定の文化財及び、文化財保護強調週間行事、文化財防火デー行事については市町村教育委員会からの報告をまとめたものである。

4．資料１～４は、三重県文化財保護審議会委員の指定調査の報告書によるものである。

目　　次

Ⅰ．文化財の緊急調査

1．諸職関係民俗文化財調査
—第２年次—……1

2．県内民謡緊急調査
—第１年次—……7

Ⅱ．文化財の指定・選択

1．国新指定の文化財……8

2．国新選択の文化財……9

3．県新指定の文化財……9

4．市町村新指定の文化財……9

5．県指定解除の文化財……10

6．県指定文化財の名称変更……10

Ⅲ．文化財パトロール事業

1．事業の内容……11

2．巡視報告……11

Ⅳ．国指定文化財の保護

1．保存修理……13

2．指定文化財管理……13

3．防災施設……13

4．無形文化財の伝承・記録保存…13

5．収蔵庫建設……14

6．特別天然記念物カモシカ保護…14

7．調　　査……14

Ⅴ．県指定文化財の保護

1．保存修理……15

Ⅵ．文化財愛護活動

1．文化財講習会……16

2．文化財愛護活動方策研究……16

1）安乗中人形芝居クラブ……18

2）熊野市の歴史を知る会……19

3．文化財愛護強調週間行事……23

4．文化財防火デー行事……25

資料　県新指定文化財調査報告書

1．旧三重県第三尋常中学校校舎付正門（建造物）……29

2．絹本著色如来荒神曼荼羅図１幅（絵画）……30

3．絹本著色阿弥陀二十五菩薩来迎図１幅（絵画）……31

4．木造大日如来坐像１軀（彫刻）……32

（表紙）**「伊勢朝熊岳之絵図」**　金剛証寺蔵

Ⅰ　文化財の緊急調査

1．諸職関係民俗文化財調査―第２年次―（国庫補助事業）

２年計画の第２年次。当初予定の150件には至らなかったが、両年度で140件の調査を実施し、調査結果を『三重の諸職』としてとりまとめた。

(1)　調査指導員

堀田　吉雄　　三重県文化財保護審議会委員

木下　　忠　　三重県文化財保護審議会委員、愛知大学教授

(2)　調査員（○印は地区代表）

	氏　名	所　属
北勢地区	伊藤　良吉	愛知学院大学歯学部電子顕微鏡技師 名古屋民俗研究会代表
	大塚　由良美	桑名市博物館学芸員
	岡本　信也	現代風俗研究会
	小倉　　久	関町文化財調査員
	○佐藤　誠也	朝明高等学校教諭 三重フィールド研究会事務局長
	津田　豊彦	名古屋市衛生研究所
	土肥　久代	伊勢民俗学会
	樋口　　靖	桑名高等学校教諭
	堀　　哲	徳島文理大学教授
	水谷新左衛門	桑名市文化財保護審議会委員
	鷲野　正昭	愛知県立港養護学校教頭
中勢地区	○茅原　　弘	三重郷土会代表
	阪野　　優	四日市工業高等学校教諭
	坪井　　守	千里ヶ丘小学校教諭
	中村　　潔	豊津小学校教諭
	堀端　冨士雄	津東高等学校教諭
	宮本　　隆	村主小学校教諭
	森川　貴司	上野小学校教諭
	若林　英郎	津東高等学校教諭
松阪地区南勢・志摩地区	○田畑　佳子	松阪市立図書館郷土資料室主任
	冨田　正宏	津高等学校教諭
	中野　イツ	明和町文化財保護委員
	堀本　孝子	松阪女子高等学校司書
	浦谷　広巳	阿児町文化財調査委員 浜島町史編纂室顧問
	岡田　照子	岐阜女子大学教授
	中村　　競	神鋼電機
	西城　利夫	志摩民俗資料館学芸員
	野村　史隆	海の博物館学芸員
	平賀　大蔵	海の博物館学芸員
	○藤原　　寛	三重県立博物館学芸員

	氏　名	所　属
	安田　　昇	前鳥羽高等学校定時制教頭
	八幡　崇経	神宮司庁出仕
伊賀地区	上井　俊記	自営業
	○中川　　甫	伊賀町役場
	福地　龍夫	桔梗が丘小学校長 名張市文化財調査委員
	本田　真作	自営業
	松鹿　昭二	名張西高等学校教諭 名張市文化財調査委員
	和田　忠臣	上野高等学校教諭
尾鷲・熊野地区	○伊藤　　良	尾鷲市文化財調査委員
	栗本　俊雄	津西高等学校教諭
	中森　勇吉	紀和町文化財専門委員
	前　　千雄	熊野市文化財専門委員
	湊　　章治	長島高等学校教頭
昭和63年度調査員（ただし増員分のみ）		
北	三枝　義久	桑名西高等学校教諭
松阪地区	上阪　千保	元松阪市歴史民俗資料館臨時職員
	海住　春弥	多気町文化財保護委員
	木下　泰典	本居宣長記念館研究員
	栗谷　節二	大台町文化財保護調査委員長
	小阪　和生	飯南町教育委員会社会教育指導員
	村田　暁美	松阪市立図書館臨時職員
	森田　順一	勢和村文化財保護委員会長
南勢・志摩地区	沖林　一郎	自営業
	川口　祐二	南勢町教育委員会事務局長
	小山　清見	南島小学校長 南島町文化財調査会委員
	野呂　純子	海の博物館学芸員
	古市　忠造	伊雑宮神宮主事 磯部町文化財調査委員
	森　　幸朗	元松阪工業高等学校教諭
	森本　良松	吉津小学校長 南島町文化財調査会委員
賀	越山　邦夫	青山町文化財専門委員

(3) 地区別調査職種一覧表（○印、報告書に掲載したもの）

地区	番号	職種名	伝承者名	伝承地	調査員
北勢地区	①	瓦屋	小林敏秋	桑名郡多度町多度	伊藤良吉
			小林栄子	桑名郡多度町多度	
	2	木型（鋳物用）	遠藤辰男	桑名市大仲新田452	大塚由良美
	3	指物師（タンス）	田中隆	桑名市馬道3-334	堀哲
	④	太鼓作り	中村泰夫	桑名市深川町	三枝義久
	5	和ろうそく作り	古村まつえ:匡志	桑名市宮通23	堀哲
	6	竹箕作り	加藤郁郎	桑名市西別所551	堀哲
	7	石屋	根来市蔵	桑名市吉津屋町18	水谷新左衛門
	8	鍛冶	三品正男	桑名市鍛冶町54	水谷新左衛門
	⑨	鋳物師（梵鐘）	中川正知	桑名市新矢田15	大塚由良美
	10	かぶら盆	伊藤好子	桑名市宮通35	水谷新左衛門
	11	しめ縄作り	水野一夫	三重郡朝日町柿1991	大塚由良美
	⑫	下駄作り	安田喜一	三重郡菰野町竹成1999-1	樋口靖
	⑬	竹細工	斎藤幸一	三重郡菰野町小島1322	樋口靖
	14	畳職人	梅村修身	三重郡菰野町菰野1333-3	樋口靖
	⑮	四日市萬古焼（伊勢型紙）	圦山誠司	三重郡菰野町宿野1648	佐藤誠也
	⑯	桶屋	藤見善八	四日市市新町4	佐藤誠也
	17	うちわ造り	稲垣藤夫	四日市市日永4-4-48	土肥久代
	18	提灯屋	大谷芳信	四日市市東富田19-13	佐藤誠也
	19	畳職人	堀木晃	四日市市元新町7-15	土肥久代
	20	土鈴作り	藤井勝	四日市市羽津山町2-28	土肥久代
	21	鋸目立	伊藤一市	四日市市富田1丁目	佐藤誠也
	22	桶屋	服部重三	鈴鹿郡関町中町474-1	小倉久
	23	竹細工	越山友次郎	鈴鹿郡関町新所町	小倉久
	24	鍛冶	片岡昭夫	鈴鹿郡関町新所町1780	小倉久
	25	染物屋	冬柴正勝 行雄：啓子	亀山市本町2丁目4-1	伊藤良吉
	26	刀師（伊勢型紙）	善道伊太郎	鈴鹿市白子町1丁目16	三枝義久
	㉗	棕櫚箒作り	田中明郎	安芸郡芸濃町椋本殿町429	若林英郎
	28	瓦屋	北角隆信	安芸郡安濃町内多2496	宮本隆
	29	建具師	三井介博	安芸郡河芸町一色567	中村潔

地区	番号	職種名	伝承者名	伝承地	調査員
中勢地区	30	伊勢型紙彫師	野島　勲	安芸郡河芸町中別保2427-2	中村　潔
	31	桶屋	服部佐太郎	津市雲出本郷町1292	茅原　弘
	32	仏壇彫刻	野田勝儀	津市片田久保町405-3	阪野　優
	㉝	和楽器修理	川合正一	津市乙部15-2	坪井　守
	34	竹細工	紀平保生	津市八幡町25	若林英郎
	㉟	なすびうちわ作り	故松尾金造	（当時）津市新東町	茅原　弘
	36	提灯屋	中島　久	津市八幡町85	阪野　優
	37	畳職人	増田　博	津市一身田大古曽92-2	森川貴司
	38	しめ縄作り	川合繁次郎	津市神戸677-2	若林英郎
	39	伊勢型紙彫師	岩崎金一	津市白塚町5299-1	阪野　優
	40	木綿織	臼井賢一	津市一身田大古曽67	森川貴司
	41	津もじ	――――	（津市八町　他）	茅原　弘
	42	瓦屋	鎌田隆司	津市片田志袋町280-1	茅原　弘
	43	阿漕焼	福森　博	津市大谷町179	阪野　優
	44	印章作り	高木秀男	津市南丸ノ内14-10	森川貴司
	45	鍛冶	川北道男	津市一身田中野863-2	森川貴司
	46	鋸鍛冶	別所　清	津市八町３丁目9-22	茅原　弘
	47	表具師	駒田　浩	津市八町３丁目12-10	中村　潔
	㊽	みがき砂作り	真弓留男	久居市明神町1222-1	若林英郎
	49	瓦屋	植村秀男	久居市新町1015-3	中村　潔
	50	大工	中山　斎	一志郡一志町井生1371-2	堀端冨士雄
	㊿	炭焼き	辻井玉男:イサオ	一志郡一志町波瀬一区2481-2	堀端冨士雄
	52	樋（とい）屋	久野策造	一志郡一志町井関196	堀端冨士雄
	53	石屋	石神周生	一志郡美杉村石名原1992	堀端冨士雄
松阪地区	54	棒屋	山田幸良	松阪市垣鼻町581	冨田正弘
	55	線香作り	前田幸男	松阪市新町1007-1	上阪千保
	56	竹細工	塩井太郎	松阪市鎌田町	田畑佳子
	57	提灯屋	松本　幸平:清子	松阪市日野町607-2	冨田正宏
	58	さるはじき	山崎　正雄:照代	松阪市小阿坂町587-1	冨田正宏
	59	紋屋	田丸　登:登代子	松阪市湊町	堀本孝子
	60	洋服仕立	橋本　市松:英一	松阪市新町	堀本孝子

地区	番号	職種名	伝承者名	伝承地	調査員
松阪地区	61	瓦屋	片山実	松阪市春日町	村田暁美
	62	松阪万古焼	佐久間勝山	松阪市下村町	村田暁美
			佐久間芳丘	松阪市下村町	
	63	石屋	根来吉三	松阪市垣鼻町1239	田畑佳子
	⑥④	膠作り	逵村英一	松阪市中万町	藤原寛
	⑥⑤	軽粉作り	宮田ぎん	松阪市射和町	田畑佳子
	66	女髪結	西川みさお	松阪市愛宕町	堀本孝子
	⑥⑦	紙すき	野呂富蔵:修三	飯南郡飯南町深野881	小阪和生
	⑥⑧	木地屋	藤戸驅	飯南郡飯高町森	藤原寛
	69	船大工	児山勝美	多気郡明和町大淀2873-8	中野イツ
	70	灯籠作り	岩崎正	多気郡明和町坂本1182-1	中野イツ
	⑦①	菅笠作り	田端孫蔵	多気郡明和町蓑村	堀本孝子
			野田静夫	多気郡明和町蓑村	
	⑦②	擬革紙作り	堀木茂	多気郡明和町新茶屋	田畑佳子
	73	御糸織	澄野たい子	多気郡明和町斎宮牛葉	中野イツ
	⑦④	藍染め	西口岩男	多気郡明和町養川甲373	中野イツ
	75	表具師	須賀操	多気郡明和町根倉486-1	中野イツ
	76	木毛作り	海住春弥	多気郡多気町相可	海住春弥
	77	大工	橋本正治	多気郡勢和村波多瀬	森田順一
			薗井歳雄	多気郡勢和村波多瀬	
	78	鍛冶	出口熊蔵	多気郡大台町佐原	栗谷節二
南勢・志摩地区	⑦⑨	櫓屋	山羽幸平	伊勢市神社港284	野村史隆
	80	木箸作り	加藤司郎	伊勢市一之木1-14-15	安田昇
	81	船大工	出口元夫	伊勢市竹鼻町	森幸朗
	82	桧縄作り	吉川喜代蔵	伊勢市一色町	野呂純子
	83	伊勢玩具作り	上地徳男	伊勢市宇治今在家町20	安田昇
	84	和傘作り	堀本孝夫	伊勢市宮川	藤原寛
			竹谷幸三	伊勢市神久6丁目(二軒茶屋)	
	85	茅屋根ふき	山下銀三	伊勢市上地町	藤原寛
	⑧⑥	浅沓作り	西沢利一	伊勢市岡本1丁目2-35	岡田照子 八幡崇経
	87	大漁旗染め	藤原しげる	伊勢市宮後2-9-24	西城利夫

地区	番号	職種名	伝承者名	伝承地	調査員
南勢・志摩地区	88	帆作り	沖林一郎	伊勢市神社港	平賀大蔵
	89	和釘鍛冶	久住勇	伊勢市大湊町	野村史隆
	90	鋸鍛冶	坂本圭三	伊勢市宮川町3丁目11-3	沖林一郎
	91	伊勢春慶塗	竹野幸吉他	伊勢市河崎2丁目20-15	安田昇
	⑫	鎌鍛冶	須崎啓一：要	度会郡二見町今一色	野呂純子
	93	真珠タル作り	寺西勘吉	度会郡小俣町	藤原寛
	94	柿渋作り	西村金右衛門	度会郡度会町大野木	藤原寛
	95	桶屋	内田寿八	度会郡南勢町斎田	川口祐二
	96	鍛冶	梅谷大二	度会郡南島町神前浦	小山清見 森本良松
	⑦	擬餌針（イヨガタ／ヒラガタ）作り	吉田修	度会郡紀勢町錦	平賀大蔵
	98	船大工（チョロ舟）	江崎祐司	鳥羽市鳥羽4丁目	野村史隆
			小林政次	鳥羽市浦村町今浦	
	99	水中眼鏡作り	城山巳治男	鳥羽市石鏡町	野村史隆
	⑩	椿油しぼり	谷昭三：まき子	志摩郡磯部町上之郷	古市忠造
	101	瓦屋	大西長男	志摩郡阿児町神明	西城利夫
	102	真珠核入用具作り	西井博	志摩郡阿児町神明	浦谷広己
	103	桶屋	松井吉一	志摩郡大王町波切	西城利夫
	104	石積石工	橋爪降	志摩郡大王町波切	西城利夫
			高橋国夫	志摩郡大王町波切	
尾鷲・熊野地区	105	船大工（ベカ舟）	長井正平	北牟婁郡紀伊長島町長島	湊章治
	106	懸の魚作り	東才八	北牟婁郡紀伊長島町長島1269	湊章治
	107	擬餌針（鰹）作り	東林太郎	北牟婁郡紀伊長島町長島1251-6	湊章治
	108	宮大工	民部仲次	北牟婁郡海山町相賀669	伊藤良
	109	小山焼	西村栄美	北牟婁郡海山町矢口浦	伊藤良
	110	大漁旗染め	山本昇吾	尾鷲市朝日町8-26	伊藤良
	111	擬餌針作り	世古孝次	尾鷲市北浦町1-13	伊藤良
	⑫	わっぱ作り	世古昭次	尾鷲市北浦町5-3	伊藤良
	⑬	いたみ作り	津本昊	熊野市五郷町和田	前千雄
	114	船大工（漁船）	片岡辰巳	熊野市二木島町	前千雄
	115	杉葉粉作り	郷義嗣	熊野市飛鳥町小坂	栗本俊雄
	116	蓑作り	山本嘉寿夫	熊野市育生町尾川	前千雄

地区	番号	職種名	伝承者名	伝承地	調査員
	117	市木木綿織	大久保真二	南牟婁郡御浜町下市木2916-1	栗本俊雄
	⑱	黒鍬	橋村作次郎	熊野市育生町長井	前千雄
	119	那智黒石細工	疋田博哉	熊野市育生町大井	前千雄
			仮谷弘嘉	熊野市神川町神の上	
	⑳	花火作り	和田至弘	熊野市有馬町5478-1	栗本俊雄
伊賀地区	121	三弦師	木村俊美	阿山郡阿山町川合1022-5	和田忠臣
	122	茅屋根ふき	今井銓	阿山郡阿山町槙山1112	和田忠臣
	123	伊賀焼	岡本晤郎	阿山郡阿山町丸柱	和田忠臣
	124	提灯屋	浦嶋芳：ミネ	上野市恵美須町1668	上井俊記
	125	傘骨作り	広岡要太郎 タマエ	上野市久米町329番地	上井俊記
	126	組紐作り	広沢公一	上野市西大手町3635-1	上井俊記
	127	石屋	中原幸二	上野市長田2596-1	上井俊記
			稲浦寛巳	上野市岩倉	
	128	鋸目立	増森久茂	上野市千歳	上井俊記
	129	建具師	陶山峻一	名賀郡青山町阿保	越山邦夫
	㉚	棒屋	今井美芳	名張市東町1709-2	松鹿昭二
	131	炭焼き	松本嘉一	名張市上比奈知2004	本田真作
	132	竹細工（ざる）	宮本長久	名張市八幡305	福地龍夫
	133	提灯屋	沢野豊吉	名張市東町1730	松鹿昭二
	134	火縄作り	竹島辰夫：なつ	名張市上小波田298	福地龍夫 （岡田博）
	㉟	茅屋根ふき	金中昌男	名張市中村403番地	本田真作
	136	むしろ作り	福森キヌエ	名張市八幡388	福地龍夫
	㊲	土ふご作り	山本幸男	名張市滝之原2372-3	本田真作
	138	瓦屋（鬼瓦）	岩見弥蔵	名張市中村字広坊76	本田真作
	139	鍛冶	坂井伸吉	名張市下比奈知1392	本田真作
	㊵	銅板細工	坂本嘉蔵	名張市夏見2150	松鹿昭二

2．県内民謡緊急調査―第１年次―（国庫補助事業）

我が県には、古くから伝承された数多くの民謡があるが、これはそれぞれの地域の歴史や風土に根ざし、人々の生活心情や生業等の姿を伝える大切な民俗文化財であり、我が県伝統文化の一つとして今後とも伝えられていくべきものである。しかしながら、近年における産業や生活のあまりにも急激な変化によって、数多くの民謡は他の民俗文化財と同様に人々の気づかないままに衰微にひんしつつあり、また盛んにうたわれている一部の民謡も歌謡調に変容したりしている。

従って、今にしてその実態把握を組織的に行わねば、これまで久しく伝承されてきた数多くの民謡が永久に消え失せてしまうことは目に見えている。

そこで、現在各地に何とか伝承されているこれ等の民謡の実態等を緊急に調査し、系統的に記録にとどめるとともに、その成果を地域の文化活動や社会教育、学校教育の場で生かしたり、今後の現地公開や専門家、研究者等の利用に役立てるなどして、我が県伝統文化の保存伝承に資することとするものである。

（調査対象）

① 調査地域及び調査地点

県内全市町村を対象とし、調査地点は少なくとも市町村合併以前の旧行政区画内に１ヶ所はとるなど出来るだけ濃密にする。

② 対象とするべき民謡

それぞれの地域で古くから伝承されてきた民謡で現在なお伝承をみているもの（民謡の節まわしを忘れているものでも歌詞を記憶しているものは対象とする。ただ、歌詞集に掲載してあるのみで伝承の全くとだえたものは除外する。）

その種類は、労作歌、祭り歌・祝い歌、踊り歌・舞謡、座興の歌、語り物・祝福芸の歌、子守歌、わらべ歌とする。

（調査委員）

堀田　吉雄	三重県文化財保護審議会委員
木下　　忠	愛知大学教養学部教授 三重県文化財保護審議会委員
高橋　隆二	三重大学教育学部教授
杉山　常子	高田短期大学教授
西山　嘉代子	皇学館大学助教授
大月　玄之	三重大学教育学部助教授
久野　壽彦	岐阜大学教育学部教授

（民謡調査員）

○北勢地区

服部　勇次	服部勇次音楽研究所
藤田　宣和	北勢中学校
久志本まどか	名古屋民族音楽研究会
舘　　直也	鈴鹿高校
西村　栄二	亀山高校
久志本　鉄也	三重県教育委員会
伊藤　俊一	鈴鹿市勤労青少年ホーム
藤田　栄子	石薬師高校
儀賀　友希夫	中日新聞鈴鹿ホームニュース

○中勢地区

藤田　　明	津西高校
桜木　博文	神戸高校
原　由美子	音楽教室講師
石井　　環	一志町郷土文化研究会
東　　俊之	三重大学教育学部附属中学校
山崎　俊彦	幼稚園教員養成所
山本　　威	白山町文化財調査委員
長谷川　幸代	宇気郷小学校

○松阪地区

田畑　佳子	松阪市立図書館郷土資料室
小林　典子	宮前小学校
越知　ひとみ	愛知教育大学大学院
池田　稲吉史	宮川村史編纂事務局

○南勢・志摩地区

山本　茂　伊勢新聞社
南勢町文化財保護委員
南島町文化財調査会委員
谷　潤一　磯部町文化財調査委員
清崎　博　磯部小学校
南　宣子　南音楽教室
羽根　文夫　度会町文化財調査委員
松本　茂一　鳥羽市文化財調査保護委員
小村　和儀　阿児町文化財調査委員
逵原　実　二見興玉神社

○伊賀地区

福地　龍夫　自営
石原　弘子　自営
立花　佳代　青山中学校
佐々木　聖佳　奈良教育大学

○紀州地区

田崎　通雅　尾鷲市立中央公民館郷土室
岡本　文夫　熊野小型映画同好会
前川　具己　熊野小型映画同好会

Ⅱ　文化財の指定・選択

1．国新定の文化財

種別		名称	員数	時代	所在地	所有者・管理者 伝承者	指定年月日	所在 市町村
有	建	来迎寺本堂	1棟	江戸	松阪市 白粉町512	来迎寺	昭63．5．11	松阪市
有	建	（別　記）		江戸	鈴鹿郡 関町新所1173	関地蔵院	昭63．5．11	関町
		地蔵院　本堂　1棟 附　棟札下書　1点 （別記）地蔵堂再興日記（元禄8年～15年）　1冊 地蔵菩薩本堂再興之由縁（元禄10年）　1冊 勘定帳（元禄10年）　1冊 江戸開帳願之記（元禄10年）　1冊 鐘楼　1棟 附　棟札　1枚 三町普請鐘楼堂修覆記（文化5年）　1冊						
記	史	赤木城跡及び 田平子峠刑場跡		室町	紀和町赤木	紀和町ほか	平元．3．10	紀和町

2．国新選択の文化財

名　　称	伝　　承　　者	選択年月日	所在市町村
北勢・熊野の鯨船行事	鳥出神社鯨船神事委員会	平元．2．27	四日市市
	南納屋町鯨船保存会		〃
	磯津鯨船保存会		〃
	南楠鯨船保存会		楠　　町
	梶賀ハラソ祭保存会		尾　鷲　市

3．県新指定の文化財（P33～36、資料1～4参照）

種	別	名　　称	員数	時代	所　在　地	所有者・管理者 伝承者	指定年月日	所　在 市町村
有	建	旧三重県第三尋常中学校 校舎付正門	1棟	明治	上野市 丸之内103	三重県	平元．3．27	上 野 市
有	絵	絹本著色如来荒神曼荼羅図	1幅	室町	上野市 西高倉3543	徳楽寺	〃	〃
有	〃	絹本著色阿弥陀二十五菩薩 来迎図	1幅	南北	津市 上浜町2-105	深正寺	〃	津　　市
有	彫	木造大日如来坐像	1軀	平安	度会郡 南島町河内	河内区・村山区 神前浦区	〃	南 島 町

4．市町村新指定の文化財

種	別	名　　称	員数	時代	所　在　地	所有者・管理者 伝承者	指定年月日	所　在 市町村
記	天	川島町シデコブシ自生地	—	—	四日市市 川島町字八ツ谷	四日市市	昭63．11．7	四日市市
無	民	北島獅子舞	—	—	長島町 大字西外面1517	八幡神社	昭63．7．1	長 島 町
有	歴	三草集版木	25枚	江戸	桑名市京町37-1	桑名市博物館	平元．2．20	桑 名 市
有	古	本多美濃守殿文書	1枚	〃	〃	〃	〃	〃
有	〃	権現様御代水谷九左衛門殿 折紙	1枚	桃山	〃	〃	〃	〃
有	〃	権現様本多中務殿折紙	1枚	〃	〃	〃	〃	〃
有	彫	木造阿弥陀三尊ならびに 胎内仏木造阿弥陀如来坐像	2軀	鎌倉 室町	久居市庄田町	庄田町自治会	昭63．5．23	久 居 市
有	〃	木造如意輪観音菩薩坐像	1軀	鎌倉	久居市	賢明寺	〃	〃
無	民	小野獅子舞保存会	—	—	白山町大字川口	代表　谷川利弘	平元．2．20	白 山 町
無	〃	南出かんこ踊り保存会	—	—	〃　南出	〃　内田尚己	〃	〃

種別		名称	員数	時代	所在地	所有者・管理者 伝承者	指定年月日	所在 市町村
無	民	山田野かんこ踊り保存会	—	—	白山町 大字山田野	代表　中橋四郎	平元．2．20	白山町
無	〃	佐田かんこ踊り保存会	—	—	〃　佐田	〃　掛川民雄	〃	〃
無	〃	元取り千本づき保存会	—	—	〃　城立	〃　岡田直蔵	〃	〃
有	彫	瀬古区十一面観音立像	1軀	平	〃　川口	瀬古区	〃	〃
有	建	来迎寺裏門	1棟	江	松阪市 白粉町512	来迎寺	昭63．4．26	松阪市
記	天	阿射加神社社叢	—	—	松阪市小阿坂町 118-2,120	阿射加神社	昭63．4．26	松阪市
記	天	旭町のアイナシ	1本	—	伊勢市旭町390	板谷　幸治	平元．3．3	伊勢市
有	彫	大日如来坐像	1軀	平	南島町河内	村山区・神前浦区・河内区	昭63.12.23	南島町
記	史	四方崎石燈籠	1基	江	紀伊長島町 東長島2658-1	呼崎区長	平元．1．23	紀伊長島町
記	天	桃頭島（とがしま）	—	—	尾鷲市 大字南浦4106-1	尾鷲市長	昭63.11.29	尾鷲市
有	古	土橋区有文書	133枚	江～昭	上野市 丸之内40-5	土橋区・ 上野市立図書館	平元．3．16	上野市
有	彫	木造薬師如来坐像	1軀	平	上野市三田1547	西盛寺	平元．3．16	上野市
有	〃	十一面観世音菩薩	〃	鎌	大山田村富永	新大仏寺	平元．3．31	大山田村
有	〃	地蔵菩薩立像	〃	室	〃	〃	〃	〃
有	〃	地蔵菩薩石像	2軀	江	〃　中村	新堂寺	〃	〃

5．県指定解除の文化財

種別		名称	指定年月日	所在地	所有者・伝承者 管理者	解除年月日
記	天	童子のヤマトタチバナ	昭30．4．7	鳥羽市桃取町童子318-5	片山善作	平元．3．27

6．県指定文化財の名称変更

種別		旧名称	新名称	指定年月日	所在地	所有者 管理者
記	天	鈴鹿山の鏡肌	鈴鹿山の鏡岩 （鏡肌）	昭11．1．22	鈴鹿郡関町大字坂下字鈴鹿山620-1	関町坂下区

Ⅲ　文化財パトロール事業

1．事業の概要

三重県下の指定文化財及び埋蔵文化財包蔵地を巡視し、常時、文化財の管理、保存状況を把握し、適切な処置を講じて文化財の保護の万全を期することを目的として、各教育事務所毎に文化財調査員を任命して調査活動を行っている。

建造物・天然記念物の巡視、保護管理指導には、57年度からチェックポイントカードにより調査の徹底をはかっている。（P28文化財調査員一覧参照）

2．巡視報告

（天然記念物・名勝）

名　　称	所在地	点　検　結　果
多度のイヌナシ自生地	多度町	説明板不備。
美鹿の神明スギ	〃	異常なし。
篠立の風穴	藤原町	進入路不備。
坂本のボダイジュ	〃	枯損。
御池沼沢植物群落（国指定）	四日市市	西部観察路不備。
西阿倉川のアイナシ自生地（国指定）	〃	異常なし。
東阿倉川のイヌナシ自生地（　〃　）	〃	〃
奥郷の寒椿	菰野町	〃
鎌ヶ岳ブナ原始林	〃	標識・説明板不備。
宗英寺のイチョウ	亀山市	説明板不備。
野登山のブナ林	〃	〃
石薬師の蒲ザクラ	鈴鹿市	標識不備。
長太の大クス	〃	太い枝枯損。
川俣神社のスダジイ	〃	異常なし。
白子の不断桜（国指定）	〃	〃
西の城戸のヒイラギ	〃	一部枝枯損。
アイナシ	〃	異常なし。
金生水沼沢植物群落（国指定）	〃	〃
小岐須の屏風岩	〃	説明板不備。
鈴鹿山の鏡肌	関町	標識不備。
椋本の大ムク（国指定）	芸濃町	異常なし。
長徳寺の竜王桜	〃	〃
柳谷の貝石山	美里村	説明板不備。
榊原の貝石山	久居市	〃
矢頭の大スギ	一志町	一部枝枯損。
国津神社のケヤキ	美杉村	〃
真福院のケヤキ	〃	説明板不備。
東平寺のシイノキ樹叢	〃	異常なし。
不動院のムカデラン群落（国指定）	松阪市	雑草侵入。
水屋の大クス	飯高町	異常なし。
西村広林宅址のフウ樹	多気町	説明板不備。
栃ヶ池湿地植物群落	〃	クチナシ群落減少。説明板不備。

名　　称	所在地	点検結果
斎宮のハナショウブ群落（国指定）	明和町	雑草侵入。
大杉谷の大杉	宮川村	異常なし。
松下社の大クス	二見町	〃
道方の浮島	南島町	〃
花垣のヤエザクラ	上野市	〃
長瀬のヒダリマキガヤ	名張市	〃
飛鳥神社樹叢	尾鷲市	樹叢内一部伐採。
九木神社樹叢（国指定）	〃	一部枯損。
尾鷲神社の大クス	〃	周辺開発に要注意。
法念寺のテツギョ	〃	異常なし。
矢の川陰谷樹叢	〃	〃
徳司神社社叢	熊野市	〃
神内神社樹叢	紀宝町	〃

（美術工芸品・考古資料・古文書）

名　　称	所在地	点検結果
木造阿弥陀如来坐像（国指定）	上野市	異常なし。
木造四天王立像　（〃）	〃	〃
木造日光・月光菩薩立像（〃）	〃	〃
岩根の磨崖仏	〃	〃
石造燈籠（国指定）	名張市	〃
黒漆厨子（〃）	〃	〃
木造薬師如来坐像	〃	〃
木造弥勒如来坐像	〃	〃
木造薬師如来坐像	阿山町	底部破損。
木造阿弥陀如来坐像	伊賀町	異常なし。
板彫五輪塔（国指定）	大山田村	〃
木造薬師如来坐像	尾鷲市	〃
紙本墨書尾鷲大庄屋文書	〃	〃
須賀利浦方文書	〃	〃
木造薬師如来坐像	海山町	〃

（建　造　物）

名　　称	所在地	点検結果
猪田神社本殿（国指定）	上野市	一部分破損。
〃	〃	異常なし。
高倉神社（国指定）	〃	〃
射手神社十三重塔（国指定）	〃	〃
木造閻魔堂	〃	破損。
町井家住宅（国指定）	〃	異常なし。

（有形民俗文化財）

名　　称	所在地	点検結果
紙漉き用具一式	名張市	異常なし。

Ⅳ　国指定文化財の保護 ―国庫補助・県費補助事業―

（　）内は事業主体者

1．保存修理

(1)　建造物　**専修寺如来堂**（津市・専修寺）

真宗高田派本山専修寺如来堂は、全面的な屋根の痛みや縁板の腐蝕等が目立ってきているため、昭和57年度から保存修理事業に入り、本年度は、素屋根鉄骨の解体及び縁側廻りの組立などを行った。

(2)　建造物　**金剛証寺本堂**（伊勢市・金剛証寺）

江戸時代初期の建立で、昭和４年に解体修理、同34年に屋根の葺替工事が行われたが、本堂床下で地割れが発生しており、本堂の柱全体が傾斜し、縁板に数cmの隙間が生じているため、昭和61年度から破損状況についてボーリング調査・基盤層調査・建物歪調査を行ってきたが、本年度にはその調査結果をまとめた。

(3)　史跡　**上野城跡**（上野市）

上野城跡の石垣は、構築後約400年を経て、随所に石垣のはらみ、波打ちが生じ崩壊の危機が生じたため、昭和55年度から継続的に復元工事をすすめ、本年度は、旧筒井城石垣69.9㎡の撤去と151.9㎡の積替、石垣の現況側面図を作成した。

(4)　伝統的建造物群　**関町関宿重要伝統的建造物群保存地区**（関町）

昭和59年12月10日重要伝統的建造物群保存地区として選定された中で、修理事業として１戸の解体修理と４戸の半解体修理を行った。

2．指定文化財管理

(1)　歴史資料　**集古十種版木燻蒸殺虫**（桑名市・鎮国守国神社）

版木1451枚について、全体に虫蝕が進み破損の可能性もでてきたので、ガス注入による一括燻蒸殺虫を行った。

3．防災施設

(1)　建造物　**専修寺御影堂ほか**（津市・専修寺）

真宗高田派本山専修寺は、国宝２件を含む多数の重要文化財を有しながら、火災等に対する備えが不十分なため、昭和57年度から継続的に御影堂を中心に防災施設を設置してきた。本年度は、唐門、如来堂及び渡り廊下の自動火災報知設備を行った。

4．無形文化財の伝承・記録保存

(1)　無形文化財　**伊勢型紙**（鈴鹿市）

伊勢型紙技術保持者の指導のもと、中堅技術者を対象として伝承者の養成及び資料の収集に努めるもので、本年度は第６期１年次にあたり、５名の養成委員による実技指導、復刻作品の講評、先進各地の伝統工芸の視察などを行った。

5．収蔵庫建設

(1) 有形民俗文化財「**伊勢湾・志摩半島・熊野灘の漁撈用具**」(鳥羽市・㈶東海水産科学協会)

現在の収蔵庫（「海の博物館」）では面積も狭く、設備面でも劣るため、鳥羽市浦村に延床面積約2,000㎡の収蔵庫の建設を行った。

6．特別天然記念物カモシカ保護

近年、人工造林地の幼齢木に対するカモシカの食害が増加し社会問題化しているため、環境庁・林野庁・文化庁の三庁協議にもとづいて、種の指定から生息地による指定へ移行するための経過措置として、保護地域設定がすすめられ、保存のための調査とともに食害防除のための防護柵設置を行った。

(1) **通常調査**（三重県）

三重県文化財調査員に依頼し、鈴鹿山地保護地域及び紀伊山地におけるカモシカの生息状況、生息環境を定期的に巡視した。

〈調査員〉（　）は担当地区

清水　実（藤原町）・伊藤　勝義（藤　原　町）・小森　良一（北勢町）・出口　幸雄（北勢町）
木村　裕之（大安町）・清水　義孝（大　安　町）・伊藤　武吉（菰野町）・森　豊（菰野町）
加藤　幸生（四日市市）・寺田　卓二（四 日 市 市）・瀬川　学（鈴鹿市）・奥埜　清道（鈴鹿市）
中川　宗夫（宮川村）・福居　里平（宮　川　村）・小林平八郎（飯高町）・辻本　恵計（飯高町）
川端　徳夫（海山町）・小島　弘也（紀伊長島町）・山本　和彦（尾鷲市）・清水　善吉（尾鷲市）

(2) **カモシカ食害対策**〔防護柵の設置〕（各市町村）

（宮　川　村）	26ヶ所	16,154m	（海　山　町）	10ヶ所	7,926m
（飯　高　町）	13ヶ所	7,092m	（紀伊長島町）	2ヶ所	1,931m
（尾　鷲　市）	8ヶ所	3,667m			

7．調査

(1) **松阪市殿町地区**（松阪市）

松阪市殿町に残る江戸時代武家屋敷（御城番屋敷）群を中心に約31*ha*の範囲について、建物群の現況把握、保存地区としての基本計画の策定を行った。

(2) **松浦武四郎関係歴史資料**（三雲町）

三雲町小野江の生家に残る資料（古文書・道具など）数100点について、整理し、目録の作成を行うため、本年度は、調査を行い、次年度には目録を発行する。

V　県指定文化財の保護 ―県費補助事業―

（　）内は事業主体者

1．保存修理

(1)　史跡　**名張藤堂家邸跡**（名張市）

昭和57年度から59年度にかけての３ヶ年で老朽化著しい建物の部分修理を行ったが、本年度は未修理であった建物南側の清閑楼の解体修理を行った。

(2)　建造物　**白山比咩神社本殿**（白山町南出・白山比咩神社）

本殿屋根の桧皮葺の損傷が著しく、雨漏りなども激しいため屋根の葺替え及び木部分の補修も行った。

(3)　彫刻　**木造十一面観音立像１軀保存修理**（志摩町・観音堂）

平安時代前期の作であるが、像全体に虫蝕が著しく、後世の改造も認められるため、復元補修を行った。

Ⅵ　文化財愛護活動

1．文化財講習会

第６回文化財講習会を10月31日(月)県松阪庁舎６階大会議室において開催した。この講習会は、文化財の保護及び振興の一助と資質の向上を図るために実施するもので、下記の開催要項により行い、県下から157名が受講した。

(1) 目　的　　文化財保護に携わっている三重県文化調査員、県及び市町村文化財保護関係委員、文化財所所有者・管理者、文化財保護行政担当者等を対象として文化財保護に関する基礎的知識と技能等の研修を行い、もって資質の向上を図るとともに、文化財の保護と活用の強化に資する。

(2) 主　催　　三重県教育委員会　　全文連三重支部

(3) 期　日　　昭和63年10月31日(月)

(4) 会　場　　県松阪庁舎６階大会議室（松阪市高町138）

(5) 内　容　　書籍・絵画、彫刻の保存について

(6) 日　程　　10:00～15:00

午前の部	9:30～10:00	受付（受付、昼食券販売、全文連三重支部会費納入）
	10:00～10:30	開会行事（主催者挨拶、日程説明、講師紹介）
	10:30～12:00	講座１「書・画類の保存について」 岡墨光堂　　岡　岩太郎氏
	12:00～13:00	昼食休憩
午後の部	13:00～14:30	講座２「彫刻類の保存について」 美術院国宝修理所　所長　　小野寺久幸氏
	14:30～15:00	閉会、諸連絡
	15:00～16:00	昭和63年度全文連三重支部総会

2．文化財保護活動方策研究

A．事例１

(1) 実践研究の主題

「安乗文楽」の継承と後継者の育成

(2) 実践研究の団体

安乗中学校文楽クラブ（顧問　尾崎完治）

(3) 実施期間

昭和63年４月20日～昭和63年11月30日

(4) 実践研究の場の地域特性

安乗は三重県の東南端、志摩半島の東海岸ほぼ中央部に位置し、的矢湾をつつむように突出した安乗岬の根っこに主部落があり、面積1.20㎢、人口約2,800人の沿岸漁業を主としてきた村で、近年は観光地としての性格も強く、40軒近くの旅館や民宿が建ち並び、安乗灯台、海水浴、海の幸と目的はさまざまに一年中観光客が絶えない。

さて、この地に400年も昔より今に伝わる民俗芸能「安乗文楽」がある。中世代、海上交通の発達にともない安乗が的矢湾の風待ち湊として栄えた頃文楽（人形芝居）も盛んに行なわれ、江戸時代には湊の繁栄と共に、文楽も最盛期を迎えた。

しかし、明治になって機帆船や機械船の出現により、的矢湾に寄港する船の数も減り、風待ち湊としての安乗は次第に活気を失い、大正15年、遂に人形芝居も中断された。

が、昭和23年になって安乗文楽の復興運動が起こり、有志が一座を組織し練習に励み、２年後の25年には初午の祝いに初演をし、みごとに復興の第一歩を踏み出した。

その後、県の無形文化財、国の重要無形民俗文化財に

指定され、毎年旧暦の８月14日と15日に八幡宮（現安乗神社）の祭礼行事として今も演じ続けられている。

(5) 実践研究の当初のねらいと研究事項

しかし、この郷土に誇る貴重な文化財、「安乗文楽」の後を受け継ぐ者がその後続かず、悲しいかな、安乗人形保存会は年々先細の傾向で、今では人形の遣い手も、70歳を越した高齢の方を頼りに、実質13名ほどの人数で何とか頑張り持ちこたえている状態である。

そのような事態にいづれなる時がくるであろうことを予測し、なんとか真剣に後継者の養成を図らねばならないと考え、作り出されたのが「安乗中学校文楽クラブ」である。

毎年、学年初めの４月に入部希望をとるが、文楽クラブを希望する生徒は極々少数で、年によっては第３希望まで捜しても３名程しかなく、それでは到低十分な活動ができないので、事情説明をして再募集したこともあった。

研究事項（活動内容）は、郷土の伝統芸能「安乗文楽」を受け継ぐべく恒例の「神祭」で、中学校文楽クラブとして一幕を演じ、安乗文楽の保存・継承に若い力を添えることを大目標に取り組む。

(6) 実践研究の概要

① 必修クラブでの活動

本校では毎週水曜日の５限・６限を必修クラブの時間として、80分間設定している。

文楽クラブでは、その時、保存会から中学校世話人としてお二人の方をお迎えし、主として、その年の「神祭」で上演予定の外題を、テープに吹き込んだ浄瑠璃に合わせ、実際に人形（デコともいう）を使いながら実技練習を行なう。

本年の外題は『鎌倉三代記』の「三浦之助母別れの段」（約30分）と「高綱物語の段」（正しくは約１時間だが、途中を省略して約30分）でクラブ員の多数の希望によりこれを選定をした。

近年では週一回の限られた時間を有効に使い、かつ、本人が望むならいくらでも家庭学習ができるよう、技術面での向上を期待して、その年の外題を録画し、希望者にビデオを渡している。これによって随分と技能が向上し、かつ、クラブ員は自信を持ちながら、それぞれ個々に自分なりの目標を設定し、それはそれは大変熱心に取り組んでくれている。

次の写真は、必修クラブの練習で、足の運び方について技術指導を受けているときの模様である。練習方法としては、前半から（あるいは日によっては、時間の関係で後半から）を一通りテープで浄瑠璃を流し、クラブ員はそれに合わせて実際に人形を遣い、一連の

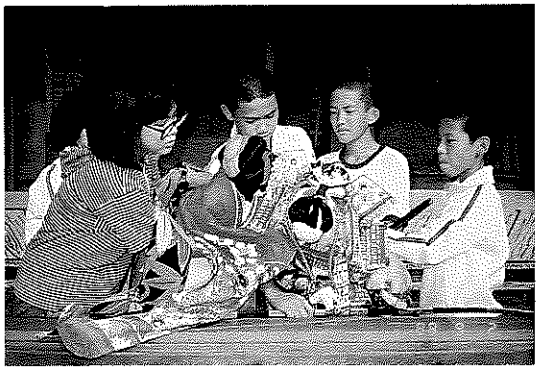
動作を修得していく。その一連の動きの中で、指導者３名が見ていて、どうにも指導を加えたいと思うことがあったときには、暫し浄瑠璃をストップして、そのつど必要な指導を加える。

② 夏休みを利用しての活動

週１回の必修クラブといっても、この曜日は郡全体での行事等の関係で何かといろいろ抜けてしまうことが多く、実際には４月から７月の夏休みまでに、例年６～７回ほどしか活動ができず、わずか４～５回の練習では到底「神祭」で自信を持って発表するまでには至れるはずがなく、止むなく夏休みを利用しての練習となる。クラブ員にとっては、折角の夏休みが文楽クラブの練習のため、何んとなく自由が束縛される形となり、正直のところ、少々負担に覚えるところであろう。誠に申し訳ないと思う。

本年は、土・日とお盆、それに各行事のある日を除いて、午後４時から午後６時頃まで合計23日間ほど練習をした。

この練習を通して、やっと発表できるまでになる。下の写真は、夏休みも終わりに近づいた頃の、本舞台で、かつ、本デコ（木偶）を使っての練習の一コマである。このときには、お互い、まさしく真剣そのものである。



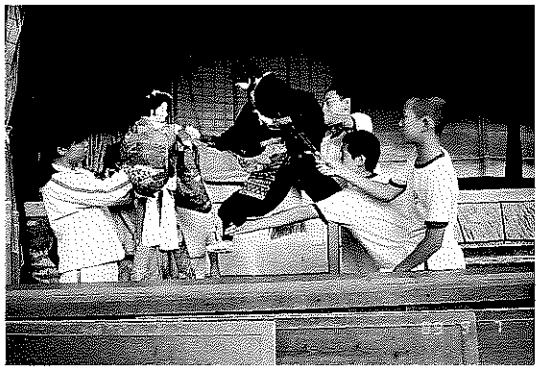
③　「神祭」での発表

毎年旧暦の８月14日・15日に、その年の文楽を安乗神社に奉納する形で「神祭」が開催される。本年は９月24日・25日の両日だった。

午後６時、安乗小学校人形クラブ員による「人形劇」の発表と共に開演され、続いて７時より安乗中学校文楽クラブ員による発表に移る。

本年の外題は『鎌倉三代記』で、初日は「三浦之助母別れの段」、二日目は「高綱物語の段」だった。みんなそれぞれに真剣である。４月からずっと夏休みも言わずに頑張り通してきた練習の成果を、わずか１時間ほどで発表するわけだ。当然、気持が引き締まる。でも、多少の余裕もあるのか舞台裏では、それぞれにこやかに話を交わし、大変嬉しそうである。

さて、いよいよ中学校の部開演、みんな必死に頑張る。汗して頑張る。大粒、小粒、顔は汗で一杯だ。チームワーク抜群に一所懸命演じている。客席からは大きな大きな声援と共に、たくさんの投げ花（硬貨を白紙で包んだもの）があげられる。その光景たるやまるで一面に雪花が舞うようだ。この時、クラブ員は最高の喜びを経験する。否、文楽に携わってきた者全てにとって、まさに今日までの努力の報いられる二日間の夜である。



神祭当日、安乗中学校文楽クラブ員による演技の一場面、手前は投げ花

④　老人ホームへの慰問

文楽に、真剣になって取り組んでくれる生徒の心は、実にやさしい。

日頃、身体不自由につき外へでかける機会の少ない老人に、昔は子育て社会のために一生懸命になって頑張ってきてくれた老人に、自分たちの取り組んできた「安乗文楽」を見ていただいて、少しでも喜んでもらえたらと、クラブ員一同の強い要望により、毎年老人ホームを慰問している。

本年は阿児町にある志摩特別養護老人ホーム「才庭寮」を慰問した。勿論、舞台作りの材料工面から、舞台セット、終われば片付けまでの一切合財を慰問先に煩わせることなく、こちらで総べてやることをモットーに。今年も大変喜んでいただいた。盛大な拍手の波・波・波…。

「よく来てくださった」と泣いて何度も何度もクラブ員にお礼を言っていたおばあちゃんの姿がとても強く印象に残っている。それを見て、もらい泣きをし、ぐっとこらえているクラブ員の姿も見た。きっと、このクラブ員たちは、これからも年老いた方々をいたわり、大切にしようと強く心に誓ったことでしょう。

⑤　海の子と山の子の文楽ふるさと交流会

折角の夏休みも、ほとんど毎日のように文楽の練習で不自由な思いを強いているクラブ員には、誠に申し訳なく思っている。また、それにもかかわらず、何一つの不平や不満を言うこともなく、練習の定刻前にはきちんと集まり、熱心に頑張り通してくれるクラブ員たちには、頭が下がる思いで、心より深く深く感謝している。

そのようなひたすらな文楽クラブ員の、日頃の努力に応えてあげたい、また、そうすることが後継者の育成にもつながると信じ始められたのが長野県は飯田市竜峡中学校人形クラブとの文楽交流会。

夏の海水浴シーズンには竜峡中学校が安乗を訪れ、秋のりんごの収穫期には、安乗中学校が飯田を訪問し、日頃身につけた練習の成果の発表を通して、それぞれの地域に伝わる伝統芸能の交流と後継者の一層の養成を図る。

そのときに要する学校関係者の費用は、総て阿児町教育委員会が援助してくださり、保存会関係者の費用については、安乗人形保存会が負担してくださる。このような後継者に対する、身にあまるほどの温かい御配慮と御支援に、顧問はもとより、クラブ員一同心より深く深く感謝している。

交流の日程については、夏の交流会を例にあげると

以下の通りである。

9月4日(土)

10:00	竜峡中学校発
16:30	安乗中学校着
16:30～17:30	上演準備並びに安乗中学校文楽クラブ員との交流会
17:30～18:10	「今田人形」上演 (外題は、「生写朝顔話」)
18:30～	片付け、その後クラブ員は文楽クラブ員の家に分宿

9月5日(日)

8:30	安乗漁港集合
8:30～11:30	漁港市場、岬公園見学、海水浴
11:30～12:30	昼食
12:30	安乗発
18:30	竜峡中学校着

方法・内容については、夏の竜峡中は飯田市所有のバスで、秋の安乗中は町教委貸切のバスに乗り、それぞれの訪問先に向かう。そして、到着後、最近の郷土の様子、学校の様子等について紹介しながら挨拶を交わし、その後数分の間をとり、文楽上演に入る。夏は、飯田に伝わる文化財「今田人形」を、秋は安乗に伝わる「安乗文楽」を、それぞれのクラブ員が相手校の中学生をはじめ地域の方々に、日頃頑張ってきた練習の成果を発表しあう形で披露する。この発表を通して、お互い両校の著しい進歩を確認しあい、明日への一層の頑張りを決意する。そして、発表後は、それぞれクラブ員の家に分宿させていただき、各家庭で海の子と山の子の積もる話の花を咲かせる。翌日は、夏は共に海水浴をして、まさしく裸の交流を深め、秋は、天竜峡周辺の散策をしながら、さらに広く語らいの輪を広げ、共に再会を願って別れを措しむ。

次は、夏と秋のそれぞれ二日目の交流の様子を写真

に納めたものである。夏は、海水浴の途中でスイカ割りをして、みんなおもしろおかしく騒いだ。炎天下で、大勢の人と食べるスイカの味はまた格別だった。海を見るのが初めてだとすごく感激している人もいた。秋には楽しみのりんご狩り。安乗の子にしてみれば、りんごの木を見るのも初めて、木になったりんごを見るのも初めてで、みんなとてもとても楽しそうだった。

次は、文化祭で文楽クラブ員が紙上発表したときの内容の一部である。この交流会を通して、クラブ員は、いろいろな経験とさまざまな喜びを体験し、文楽を続けてきたことへの選択の正しさを確認するようである。

「――家について着替えをしてから、車で近くの川路温泉に連れていってもらいました。そこはとても広い浴場で、徹君は泳いでいました。そして家へ帰ったら夕食の用意がしてくれてありました。夕食のメニューは、今までに私たちが食べたことのない馬さしや、鯉など、おいしそうなものがたくさん並べられていました。途中でお母さんが、イナゴのつくだにとハチの子を持ってきてくれましたが、誰も手をつけずにいたら、そこの家の小さい男の子が食べたので、思い切って食べました。イナゴはエビのような感じがしました。ハチの子は形が残っていて気色悪く、よう食べませんでした。だけど、ハチの子は高いと聞いて、家に持ち帰ろうとした人もいました。　(略)　さすがに長野の朝は寒かった。はく息が真っ白でした。　(略)
今思うことは『文楽クラブに入って本当によかったなぁー』ということです。――」

分宿先で、また何人かの仲間が集い、それぞれの苦労話や楽しい話等々を語り合う。家庭によっては、この交流が契機となって、その後も交流を深めている所もたくさんある。まさしく海の子と山の子のふるさと交流である。

(7)　実践研究の成果

「文楽クラブに入ると夏休みに練習がある」これが一

般生徒の文楽クラブを避ける理由の一つであった。

確かに夏休みの練習は辛かろう。が、だからといって、平素のクラブの時間だけで手を打って、そこそこで、「これが文楽だ」と終っていては真の後継者は育たない。真の後継者を育てるには、「文楽に入ってよかった」と、心底から感じ入ってもらえるようにすることが大切だ。そのためには、自らも満足し、自信と誇りの持てるようなものでなければならない。すべての発表で賞讃と多大の拍手を受けるようなものでなくてはならない。それが、真の後継者を養成するための必要条件であると考える。それには夏休みの練習も必要であった。が、それだけで理解してくれる生徒は正直限られている。もう一つ何か楽しみもほしい。これを補い満たしてくれたのが「海の子と山の子の文楽ふるさと交流会」である。クラブ員たちには「神祭」の発表とはまた別の楽しみが一つでき、お陰で近年は再募集することもなく、第一希望だけで必要クラブ員数が確保できるようになった。

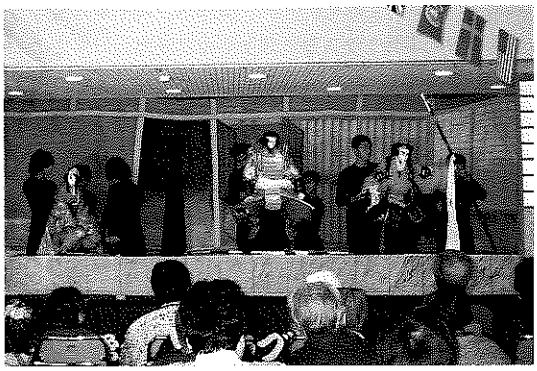
そればかりか、一昨年の神祭などは、保存会の出し物に遣い手が足りず、文楽クラブOB会5名が応援に入り、まかなった。昨年はOBが大学受験等で忙しく、現役の文楽クラブ員が応援に入った。まさしくすべりこみセーフの後継者誕生である。

みんな実に気持ちよく無理難題も引き受けてくれる。その心持ちや感極まることがしばしばである。ここまでに至るには、この度の温かいご配慮（助成）をはじめ、阿児町教育委員会並びに安乗人形保存会等々、関係各位の深いご理解と心温まる御支援あっての賜物であることを、この場をかりて御礼方明記させていただきたく思う。

次の写真は、恒例の「神祭」で保存会の遣い手が足りずOB会が応援に入って熱演している時の場面である。勿論言うまでもなく、本番だけの応援で済もう筈はなく、この日までにOBは何度か時間をやりくりして、夜の保存会の練習にも出る。

現役のときも非常に頑張ってくれた生徒達であったが、卒業後も念願の「文楽クラブOB会」を組織してくれ、その思いたるやあまりにもの嬉しさに涙の出るほどである。

応援に入っていただいたOBの方は、みんなにわかっていただけるように、あえて黒衣をまとわず、演じていただいている。



(8) 実践研究を通しての反省又は特記すべき事項

ふり返れば、クラブ員は実によく頑張ってくれたと思う。あまりにもの嬉しさに、内心じ～んと来ることが何度もあった。みんなとても心がやさしい。もともとのやさしさに加えて、各方面から寄せられた期待や心温まるご配意に精一杯応えたいという気持も働いてのことだろう。そう思える程ほんとうにみんなによくやっていただいた。自分もつらく感じることもなくはなかったが、幸せに思うことの方がはるかに多かった。

ただ、今後の課題として考えていることもいくつかある。

それは一つに、人形全般の身つくろい等が、自分達クラブ員だけでできるようになれること。技術的なこと等はビデオを見たり、互いの所作等を見て研修をつんでいくことができる。が、小道具や衣装等の補修・新調等は、保存会のおじさん達の手におんぶしている。これらが自分達だけでできるようになってこそ、はじめて一人前と考える。

二つに、太夫と三味線の弾ける人の育成である。これは、文楽クラブ員に限らず、広く町全体から、そういう人の生まれることが将来ぜひとも必要であると考える。やはり、文楽は、人形遣いと語り、三味が一体となって、そしてそこに、あるいは日常の生活がにじみだされているとき、観る人のいわゆる感動を誘うであろうと思うから。

最後に、文化財愛護活動を推進していく上で大切なことは、より多くの方の理解と暖かい支援であることを改めて確認し、当報告の結びとしたい。

（尾崎　完治）

B. 事例2

(1) 実践研究の主題

「地域における生活伝承、文化財（特に庚申塚）の研究・周知」

(2) 実践研究の団体

熊野の歴史を知る会

(3) 実施期間

昭和63年4月1日から平成元年3月31日まで

(4) 実践研究の場の地域特性

熊野市は紀伊半島の南東部にある三重県最南端の市である。東西26.2km、南北22.2kmの市地域を持ち、北東は尾鷲市、北は奈良県上北山村・下北山村に接し、西は和歌山県北山村に続き、南西は三重県南牟婁郡御浜町・紀和町に接し、南は熊野灘に面している。

海岸部（須野町・浦母町・二木島町・新鹿町・波田須町・木本町・井戸町・有馬町）と山間部（金山町・育生町・神川町・五郷町・飛鳥町）とに分かれる。農林・水産業等の第一次産業を主とする静かな地域である。

伝説の地「くまの」の一角に在り、縄文・弥生時代の土器も出土しており、昔の集落の存在が想像され、歴史の古い町である。中世には「熊野詣で」の通路であったし、近世では秀吉の紀州侵攻、北山一揆・天誅組騒動等の影響も受けている。

現在は、残念ながら過疎化の波に洗われ、活性化の道を探っているというところである。

(5) 実践研究の当初のねらいと研究事項

文化財は、注意深く愛護・保存に努力しなければ、破損・亡失等の虞れがあり、不明となってしまう場合さえある。特に「過疎化」のように沈滞しがちな社会環境の下にあっては、伝統・伝承の軽視・等閑ともなりやすく、文化財への関心の低下ともなりかねない。従って、愛護・保全については、声を大にして訴える必要があると思われる。

私どもは、そのひとつの例として「庚申塚」をとりあげることとした。

昔から村の入（出）口に立てられていた庚申塚は、人々の生活と関わりを持ってきたものであるが、時の流の間に或いは失われ、或いは移転させられたものもある。また、現在の物の中にも刻まれた字が判読不能で、造立年月日の不明のものも多い、そこで、今調査しておかないと、あとになるほど判りにくくなる心配も多い。と考えて、現状を少しでも明らかにして、それらが各地区の生活に、どの程度かかわっているかについて調べてみることにした。現状と将来について考えてみたかったからである。

このささやかな研究・調査が各地区の人々には勿論、広く市内の人々に少しでも「歴史」とか「伝統」の一端について考えて戴く緒ともなれば、との希望もあったわけである。

そのための研究事項としては

1．庚申信仰についての学習

2．庚申塚の実態調査

の二つを重点とした。

(6) 実践研究の概要

・庚申信仰について

庚申信仰研究会の刊行した著作その他、多くの著作が世に出ている。それらを会員に宿題として課し各自分担して熟読した。そして、月例会の席上で種々討議した。こうして、共通認識・共通の基礎知識を持つことに努めた。

・庚申塚の実態について

今までにも会員の各自調査したものはあったが、未完成或いは組織的ではない点もあったので、この機会に組織的・網羅的におこなうこととし、調査の共通項目を設けた。

a．調査の共通項目

ア．所在地　　エ．寸法（高さ×幅×厚さ）

イ．造立年月日　　オ．境内（周囲）の概要

ウ．石質及び形状　　カ．その他

b．調査実施日

4月24日	五郷町	（和田・大年・光明寺・谷ノ平・見初・湯屋・湯ノ谷）
	飛鳥町	（大台平・大義院・光源庵・中ノ平・高更・本郷・千軒平・岡地・野口・滑地・野口道）
4月27日	井戸町	（松田地・馬ノ戸・岡地・中屋）
	木本町	（切立・新田）
	大泊町	
6月7日	神川町	（神上上組・中組・下組・向地・殿浦）
	育生町	（大井・永井・尾川）
6月22日	金山町	（大高見・里・沼田・松ノ平・平野・上古谷）
	有馬町	（奥有馬・南有馬・志原尻）
6月27日	須野町、浦母町、波田須町	
7月20日	育生町	（粉所・赤倉・丹倉）
	神川町	（長原・花知・柳谷・碇）
12月25日	新鹿町	（徳司神社・浦本・橋間・中

\山奥・大仙寺　　/

磯崎町

井戸町（鍛冶屋敷・瀬戸・大馬・馬留）

1月27日　有馬町（山崎・池川）

2月22日　点検のため、全部を一巡

2月23日　点検のため、全部を一巡

c．各町ごとの分布数

須野町	1	磯崎町	1	金山町	7
甫母町	1	大泊町	1	育生町	13
二木島町	3	木本町	4	神川町	17
遊木町	1	井戸町	11	五郷町	8
新鹿町	7	有馬町	8	飛鳥町	12
波田須町	2	久生屋町	1		

最も古いものは、元禄年間（1688～1703）のものである。

各地区に於いて古老の話を聞くことが多かったが、事情を知る人が漸減する傾向にあるので、今回の調査は、その点でも意義が有ったと思う。

月例会

月例会は毎月1回、第2木曜日に持たれた。従って実施日は次のとおりである。

4月14日	8月11日	12月8日
5月12日	9月8日	1月12日
6月9日	10月13日	2月9日
7月14日	11月10日	3月9日

会場は林業会館、時間は原則として19時から21時までである。

(7) 実践研究の成果

a．各地区での集まりに参加して戴いた地区の各人は、郷土の歴史とか伝統といったものを再認識できたと思われる。また調査担当の私共にとっては、広く市内の実態がわかって興味深かった。先人達が「庚申信仰」を、ひとつの心のよりどころとして生活していた姿（それは現在も、形を変えて残っている）が偲ばれる。

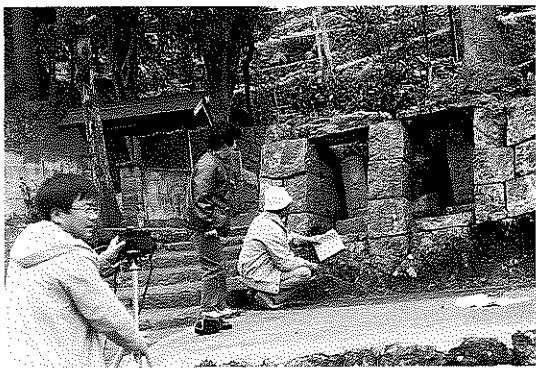
b．自発的に参加してくれた小・中・高校生などの若い人々が、新鮮な喜びや驚きを見せていたのが印象深い。このことを大切にしたい。

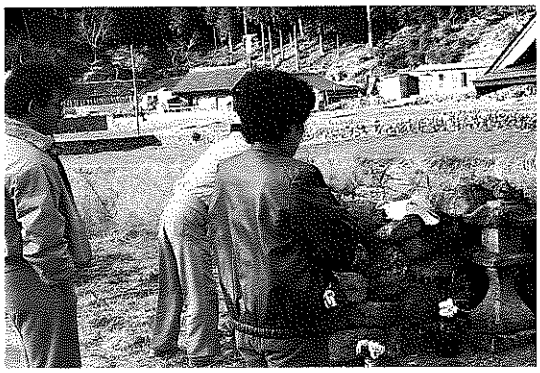
c．私達のささやかな運動に刺激されてか、「庚申講」を復活させた地区のある事を聞いたのは、嬉しいことである。

d．熱心に応援してくれた地域の方々も多いので、定期的な巡回を行う組織化を考えて呼びかけているそうすれば点検・補修等がよりよく行われよう。

(8) 実践研究を通して反省又は特記すべき事項

a．当初計画したことは、いざ実施してみると、必ずし





も計画通りにはいかないことが多く、とくに、実態調査には、予想以上の時間を要した。とにかく、実施してみて気づくことが多かった。

b．会員が年令・職業その他各層の人々なので、集合に困難で、共同作業の難渋さを常に感じた。現地調査の場合とくにそうであった。そこで月例会の席上で、意志統一を図ったが、容易ではなかった。

c．それでもなお、この活動は続けたい。忘れられがちな文化財への関心をたえず喚起し、保護の気持ちを興したいからである。今年度を初年度と考え、今後長く続けたい。

d．特記したいのは、今回の調査結果を小冊子にまとめたいのでそれの原稿を別に添付する。冊子の完成を機会に集会を持ち、市民の関心を盛り上げたい計画でいる。

e．前ページの写真４枚は、庚申塚の例（形状・銘文など）として示したものである。

f．各地区の方々に大層お世話になったので、この小冊子がなにかの御礼の気持ちの一端ともなれば、願っている。cでも書いたように、これからも続けていきたい。

3．文化財愛護強調週間行事　11月１日～11月７日

市町村名	実施時期	実施事項
桑名市	11月４日	文化財めぐり「きれいな町つくりと史跡めぐり」
	11月14日	講演会「21世紀桑名フォーラム」
多度町	11月２日～11月３日	文化財展（写真―薩摩義士の墓、パネル―拓本ほか）
大安町	11月５日～11月６日	文化財展（民俗資料）
藤原町	11月６日	文化財展（考古資料中心）
菰野町	11月３日～	郷土資料展（定期的展示替）
亀山市	11月１日～11月10	郷土資料展（陶工道八の作品59点）
	11月５日	郷土資料展展示学習講座「京焼と高橋道八について」
関町	10月31日～11月５日	国史跡正法寺山荘跡整備事業（除草・清掃）
	11月７日	県指定天然記念物鏡肌整備（清掃・案内板の設置）
津市	11月１日	国史跡谷川士清旧宅見学会
河芸町	11月３日～11月６日	文化財展「武具と昔の生活道具」
芸濃町	11月11日	郷土史・文化財講演（11月４日実施予定が延期）
美里村	11月３日	民俗芸能発表「かんこ踊り」
	11月３日	文化財展（教科書、文化財地図・写真等）
安濃町	11月３日	郷土資料展（石仏・道標等の写真）
美杉村	11月３日	「美杉の文化と産業まつり」（岐阜県美並太鼓）
三雲町	10月29日～10月30日	郷土の史跡めぐり
	11月６日	松浦武四郎没後百年記念講演会
松阪市	10月30日～11月６日	美術展覧会（絵画・彫塑・写真・書道等232点）
	11月１日～11月３日	長谷川邸・三井家発祥地、本居旧宅の公開）
	11月１日～11月８日	文人画展（企画展参宮道豊原展も実施）
飯南町	11月３日～11月６日	文化財展（古地図・考古資料）
明和町	11月３日～11月６日	町民文化祭（斎宮跡紹介、古美術品・絵画等の展示）
	11月３日	斎宮跡講演会「徽子女王」

市町村名	実　施　時　期	実　　施　　事　　項
大　台　町	11月５日～11月６日	文化財展（熊野街道調査資料）
	11月６日	芸能発表（郷土芸能）
宮　川　村	11月４日	民芸館視察と帳簿と現物の照合、防火施設の点検
	11月13日	山村フェアー（唐櫃山の神事を実演）
伊　勢　市	10月１日～12月４日	郷土資料館第２回秋期特別展「伊勢市の弥生文化」
	10月23日・11月19日	秋期特別展展示説明会
	11月12日	文化財講演会「三重の弥生文化」
	11月20日・11月23日	市民芸能大会（日舞・箏曲・能・狂言の市民団体）
二　見　町	11月３日	句碑の除幕式（３基）
小　俣　町	11月６日	文化財写真展「懐かしの小俣写真展」
大　宮　町	11月１日	拓本研修会
	11月７日	古地図調査・整理
南　勢　町	11月１日～11月７日	文化財展「釣りばり展」(考古資料から現代まで)
	11月13日	文化財めぐり（民俗資料館・五ケ所城跡他）
度　会　町	11月５日～11月６日	文化財展（森添遺跡出土遺物）
鳥　羽　市	11月３日～11月４日	市民文化祭（芸能発表会・８ミリ映画発表会）
名　張　市	11月６日	第20回観阿弥祭（能奉納他）
伊　賀　町	11月３日	趣味の会発表会
阿　山　町	11月２日～11月４日	埋蔵文化財展「阿山町内出土遺物を中心として」
大山田村	11月４日	健康ウォーク（文化財めぐりハイキングとゲーム）
海　山　町	11月５日～11月６日	郷土史研究会発表会（海山町文化展と同時開催）
尾　鷲　市	11月３日	文化財パトロール（市指定文化財）
紀伊長島町	11月13日	文化財めぐり（町指定文化財に関する講習・見学）
熊　野　市	10月15日～11月15日	文化財展（金山・深山神社棟札調査・展示）
	11月６日	民俗芸能発表「市民文化祭邦楽邦舞の夕べ」
	11月１日～11月７日	文化財点検（除草・説明板等の整備・防災点検）
	11月16日	文化財めぐり（紀和町文化財の視察）
御　浜　町	11月３日	無形文化財発表会（御浜町無形文化財連絡協議会）
	11月７日	町文化財調査員研修会（古文書調査等）
紀　宝　町	11月３日～11月４日	写真展「なつかしのふるさと紀宝」
	11月10日・11月27日	文化財めぐり（高齢者・小学６年生対象）
紀　和　町	11月１日	広報啓発（防災無線により町内全域に広報）
	11月７日	県・町指定文化財点検
鵜　殿　村	11月７日	拓本研修（村指定石造物）

文化財防火デー行事　1月26日　—第35回—

市町村名	実施概要	実施月日	対象文化財名・管理者
桑名市	消火訓練	1月26日	桑名神社・中臣神社(県建1、市絵1・工2・書1・考1・民有1)
四日市市	査察、消火訓練	1月24日	十六間四方白星兜鉢（国、工）鵜森神社、木造阿弥陀如来立像と九重の守（県、彫）悟真寺、木造毘沙門天立像（県、彫）永福寺、陶製燈籠（県、工）四日市、鯨船山車（県、民有）南納屋町鯨船山車保存会、大入道山車（県、民有）中納屋町大入道保存会、絹本著色仏涅槃図（市、絵・史）建福寺、木造大日如来坐像（市、彫）大日寺、古万古3点（市、工）永田富夫、羽津阿倉川土地紛争判決文書（市、古）、井島文書（市、古）、天春家文書（市、古）以上四日市市立図書館、北野町獅子舞(市、民無）北野町獅子舞保存会、御館獅子舞（市、民無）御館獅子舞保存会
		1月25日	木造不動明王立像（国、彫）大聖院、木造阿弥陀如来坐像、木造仏頭（県、彫）顕正寺、旧四日市市役所四郷出張所（市、建）四日市市、木造地蔵菩薩坐像（市、彫）地蔵堂、水沢堂ケ山野境紛争の判決文書（市、古）堂ケ山町自治会、六名町村方古文書（市、古）六名町自治会、大念仏（市、民無）大念仏東西日野保存会、お諏訪おどり（市、民無）お諏訪踊り保存会
		1月26日	観音寺（国、彫1、県、絵1・彫3、市、建1）、木造阿弥陀如来立像と胎内納入文書（国、彫）善教寺、大樹寺（県、絵3・書1、市、絵1）、観音寺（県、彫3）、木造地蔵菩薩坐像（県彫）正法寺、蝙蝠堂民俗玩具（県、民有）伊藤鏡子、志氏神社（市、工1・考1・史1）、龍王山宝性寺（市、建）蒔田町自治会、市場町獅子舞（市、民無）市場町獅子舞保存会、経塚公園（市、史）安乗寺、万葉史跡と聖武天皇社（市、史）聖武天皇社
菰野町	消防訓練	1月23日	無指定　大円寺（下村地区）、乗得寺（田光地区）
鈴鹿市	防火査察、防火訓練	1月23日	木造善然上人坐像（国、彫）林光寺、子安観音寺（国、天1、県、建1・工1）、伊奈富神社（国、工1、県、彫1・工1・名2、市、絵1・文1）、神宮寺（国、彫2）、銅鐘（県、工）桃林寺、江島若宮八幡神社絵馬群（県、民有）江島若宮八幡神社
亀山市	防火訓練	1月27日	不動明王坐像（市、彫）不動院
関町	消火訓練	1月26日	関地蔵院（国、建1、県、建1）
津市	立入検査、防火診断	1月23日	慈智院本堂（県、建）、阿部家住宅（市、建）、谷川士清旧宅(国、

市町村名	実施概要	実施月日	対象文化財名・管理者
	防災訓練、防火診断		史)、神宮寺(市、建・彫・絵)、木造聖徳太子立像(県、彫)厚源寺
		1月24日	湯立釜（市、工）市杵島姫神社、高田本山専修寺（国宝２・国、建２・絵４・書９、県、建３・絵１・彫２・工２・書４・古２・考１・史名１、市、建１・工２）、一御田神社神宝類（市、彫・工・書、27点）
		1月25日	木造彩色高松院坐像（市、彫）渡辺準一、そてつ（市、天）円福寺、蓮光院（国、彫２）、紙本着色羅漢図（県、絵）田中繁三、上宮寺（市、絵３・書１）、絹本着色地蔵菩薩像（国、絵）地蔵院、木造阿弥陀如来坐像（市、彫）長法寺、真教寺（市、彫４）唐人踊大幟（市、民有）分部町唐人踊保存会、石造宝篋印塔（県、建）浄明院、紙本墨書大般若経附経櫃３個（市、書）勝久寺、中野獅子舞（市、民無）中野獅子舞保存会、
		1月26日	観音寺（市、工４）、大宝院（市、絵５）、高田本山専修寺(前掲)谷川士清旧宅(前掲)、雲出小学校旧校舎玄関（市、建）津市、西来寺(国、絵２・書３、県、絵１・書１、市、絵２・工１・書６）
	防火講話、防火映画上映 防災訓練、防火診断	1月27日	四天王寺（国、絵２・彫１・書１、市、建）、仲福寺（市、彫２）
	防災訓練	1月28日	絹本著色阿弥陀二十五菩薩来迎図（市、絵）深正寺
河芸町	防火パトロール	1月26日他	無指定　20ケ寺、３神社
芸濃町	防火訓練	1月26日	無指定　浄蓮寺
安濃町	防火訓練	1月25日	木造聖徳太子立像（県、彫）松原寺
		1月29日	木造毘沙門天立像（国、彫）善福寺
久居市	防火・消火訓練 及び文化財搬出訓練	1月24日	藤堂高虎図像（市、絵）玉淀寺
三雲町	査察指導	1月25日	松浦武四郎誕生の地（町、史）松浦清
	〃	1月26日	木造阿弥陀如来坐像（国、彫）永善寺
嬉野町	防火施設設備の点検	1月23日	木造薬師加来立像（国、彫）薬師寺
美杉村	文化財防火パトロール	1月26日	国県指定文化財11ケ所
松阪市	防火訓練	1月26日	本居宣長旧宅（国、特史）松阪市
飯高町	点検活動	1月25日	無指定　町内各神社
明和町	文化財保護委員による所在場所確認と文書による依頼	1月23日	町内指定文化財

市町村名	実施概要	実施月日	対象文化財名・管理者
多気町	防火・防災等の点検	1月16日 1月18日 1月25日	薙刀（国、工）長盛寺 木造普賢菩薩坐像（国、彫）普賢寺 木造十一面観音立像（国、彫）近長谷寺、無指定　15社寺
大台町	町広報無線による啓発活動	1月26日	
伊勢市	防火査察 放水訓練 防火査察 査察及び放水訓練	1月23日 1月24日 1月25日 1月26日	木造阿弥陀如来立像（国、彫）久昌寺、獅子頭（県、彫）茜社 無指定　伊勢市立郷土資料館（但、市、考、南山古墳出土品等） 神宮徴古館農業館（国、絵1・工1・書1・考2・歴5、県、絵1、市、彫3）神宮、神宮文庫（国、書6・歴15、県、古3、市、書4）神宮、祭主職舎（市、建）神宮、旧林崎文庫（国、史）神宮 光明寺（国、書2、県、彫1・古1・市、絵1・工1）、寂照寺（県、建1・市、彫1・書1・絵2）、世義寺（国、考1、県、彫1、市、彫2）、等観寺（県、絵1・工1、市、絵2工2） 金剛証寺（国宝、考12・国、建1・絵1・彫1・工2・史1、県、彫1）
御薗村	公民館点検	1月29日	小林大念仏羯鼓踊（村、民無）小林区
小俣町	町おしらせ版に文化財保護及防火を呼びかける記事を掲載	1月20日	
玉城町	防火立入検査	1月19日	木造十一面観音立像2軀（国、彫）田宮寺区
大宮町	教委、資料館員、文化財保護委員により各箇所を点検	1月26日	
度会町	点検	1月18日	木造十一面観音立像（国、彫）正法寺 獅子頭（県、民有）下久具区
南勢町	文化財防火啓蒙資料館移動展 パトロール	1月28日 1月30日	 町内文化財
鳥羽市	防火点検、防火指導	1月26日	小浜漁業協同組合（市、古1・民有1）、大般若経（市、書）竪神観音寺、常安寺（市、絵1・工2）、日本丸の板戸（市、歴）光岳寺、松尾文書（市、古）松尾町内会
阿児町	防火査察	1月26日	安乗人形芝居（国、民無）、薬師堂（県、工1・書1）、国分寺（県、彫1・史1、町、書1）、少林寺（町、建1・彫1）、安乗寺（町、彫1・工1）

市町村名	実施概要	実施月日	対象文化財名・管理者
志摩町	消火器入れ替え	2月4日	越賀の舞台（県、民有）、旧越賀村郷倉（県、史）志摩町
上野市	消防訓練	1月26日	西蓮寺（国、絵1、県、書1・史1・絵2・書1・史2）
伊賀町	消防訓練	1月29日	木造地蔵菩薩坐像（国、彫）万寿寺
阿山町	有線放送	1月26日	
大山田村	消防訓練	1月26日	広徳寺（県、彫1、村、彫1・歴1）
名張市	文化財防火対策強化啓発 消防訓練 消防用設備点検	1月13日 1月26日 1月26日	指定文化財所有（管理）者29名 木造如来坐像（市、彫）龍性院 杉谷神社（県、建1・絵1、市、彫1） 名張藤堂家邸址（県、史）名張市
青山町	立入検査	1月26日	町内文化財
海山町	指定文化財保存パトロール及び防災点検	1月25日	町指定　建造物・彫刻
熊野市	防火設備・施設の調査	1月23日	指定文化財
紀宝町	有線放送	1月25日	
紀和町	広報無線 周辺の草刈り	1月26日 1月27日	 町指定文化財

〔昭和63年度　三重県文化財調査員一覧〕

北勢(10)	伊藤春夫 松本覚 片岡雅章 川添護 大場範久 三浦儀直 鎌田雅生 安川富春 桐生定己 田中伸之
中勢(7)	河合良成 高森英純 下井彰 本堂弘之 津村善博 宮崎洋史 小林和彦
松阪(8)	世古且守 小林直人 岡本好雅 三井博之 福田哲也 筒居利久 奥谷義一 福田昭
南勢志摩(9)	中西健 中西正典 村上喜雄 川添昭博 竹内正弘 中世古一芳 東浩成 大西素行 田村俊一
上野(10)	市田進一 森前稔 奥西勲 松鹿昭二 寺岡光三 福井健二 竹内英雄 中山暁 谷戸実 柘植智司
尾鷲(2)	田崎通雅 湊章治
熊野(3)	福村直人 田中安弘 古部均

資料1

県新定文化財調査報告書

○旧三重県第三尋常中学校校舎付正門（建造物）　　上野市丸之内103

浅野　清　委員

昭62．3．7　調査

1．概要

明治33年竣工。設計者は、先に三重県庁舎や三重師範学校校舎を設計した清水義八である。木造平屋建で、下見板張り桟瓦葺きの東西に長い建物の両端に南北棟が交わり、前方へは僅かに出るのみで後方に延び、全体はコの字型をとるが、正面中央の玄関ホールにポーチがとりつき、広く高い石階段によって上る。正面にはポーチと両翼の妻に和風入母屋根を見せる。背面には廊下が通り、両翼部ではいずれも東側に廊下をとる。ポーチの前角にはL型に三本宛の洋式円柱を立て、それと対向する主屋の壁に半円柱を立て、柱間に欠円形のアーチをかけて瓔珞を垂して飾る。正面と両脇の教室側には洋風に、上げ下げ窓と壁を交互に並べるが、背面や廊下と教室境では、和風に引違いの横長窓とし、窓や入口廻りには、洋式に額縁を廻し、室内廊下とも腰羽目を張り、天井は高く、元はすべて板天井であった。

なお、正面中央に立つ石柱の正門も同時の作で、景観上からも保存する必要がある。

2．文献

「東海の近代建築」日本建築学会東海支部歴史意匠委員会編　昭56

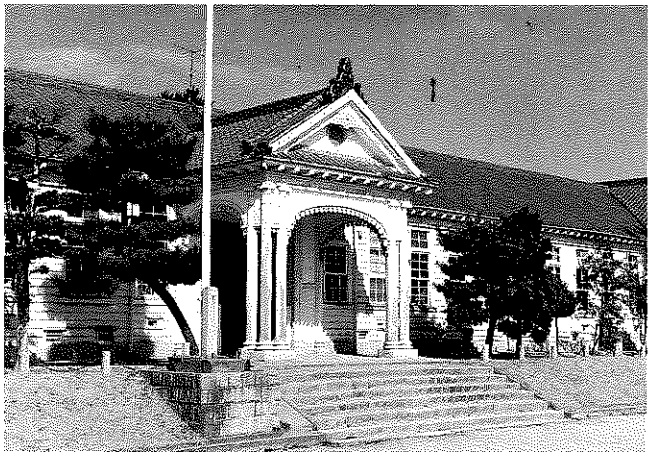
3．価値

明治初期の洋風建築には、政府のお雇い外人技師たちによる官営建物とか、外人居留地に建った建物、宣教師の設計した教会堂、住宅、学校等があり、やがて政府が外人建築家を招いて、国の重要な建築を設計させたが、外人教師によって教育された少数の工部大学（後の東大工学部）の卒業生が育って設計を始めても、それらの人々の関係する建物は極めて限られていたので、中央、地方に建つ多くの学校や役所等の洋風建築に対しては、旧藩の作事方とか、町大工の巧者な人々が、それらを見歩いて設計し、需要に応じる状況が明治30年代頃まで続いた。

これは、そうしたものの一つで、残された数少ない日本洋風建築の黎明期の例として、歴史的に重要な建物であり、指定保存が要請されるものである。東海地方におけるこの種類例としては、旧三重県庁舎（現在明治村所在、明治12年竣工）が国の重要文化財に、静岡県磐田市の旧見付学校校舎（明治８年）が国の史跡に指定されている。

4．管理

三重教育委員会



資料2

○絹本著色如来荒神曼荼羅図　1幅（絵画）　　上野市西高倉3543　徳楽寺

河原由雄、平松令三委員

昭63．6．22　調査

1．概要

掛幅装。本地縦98.0cm、横53.8cm。二院からなり、内院は着冠、六臂、宝瓶座の如来荒神を中心に、不動明王と愛染明王を配する三尊形式。不動は羂索の替りに輪宝を執り、愛染は頭上に弓矢をかざす天弓愛染で異色構成の図像である。外院には12の円相内に多面多臂の菩薩形や鬼神形を並べ、荒神像のほか14身からなる曼荼羅図を構成する。不動・愛染など14身は、この種荒神像の成立過程から判断して、修験道と結合した各所諸神の本地仏かと推定せられる。諸尊の肉身は、朱又は墨線で描き起し、截金、金泥を併用して色彩し、荒神像の裳や蓮弁に段暈（だんぐま）、片暈（かたぼかし）等の賦彩もみとめられる。なお、巻留にみる「興善院」からなる由緒は、京都鳥羽安楽寿院の末院からの伝来であることを推測させる。

2．年代

宝冠や宝瓶、持物などの金属部分に、金泥盛り上げ施工が認められる点から、室町最初期15世紀初め頃の製作と考えられる。

3．価値

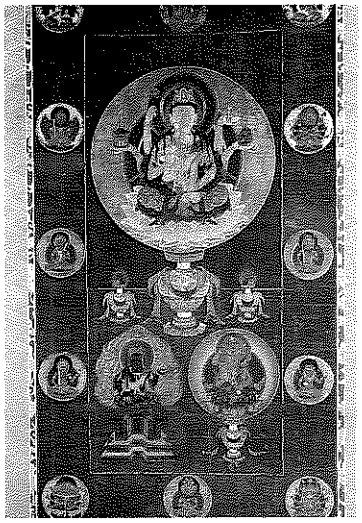
三宝荒神、如来荒神、子島荒神など荒神図像は近世作が大半であるなか、本図は、奈良県桜井市竹林寺の板絵本（独尊形、鎌倉後期）や米国ボストン美術館の三尊形式（室町時代）と比肩さるべき稀少遺品である。また、画絹や顔料の剝落が少なく、保存良好である。

以上、本図の図像的意義や画格と伝来の確かさから、上野市指定文化財から県指定文化財への昇格が妥当と認められる。

なお、調査員河原は、本図を遡るとみられる古本曼荼羅図（鎌倉初期）を発見しており、荒神像ほか14身の図像は、本図と等しく、そのいちいちの神仏本地関係は、目下調査検討中である。

4．管理

徳楽寺



資料３

○絹本著色阿弥陀二十五菩薩来迎図　１幅　　津市上浜町２丁目105　深正寺

河原由雄、平松令三委員

昭63．６．22　調査

１．概要

掛幅装。本地縦116.1cm、横49.2cm、迎摂印の阿弥陀如来立像を中心に、観音、勢至、普賢など二十五体の楽舞菩薩が雲に乗じ、画面向って左上より右下方へ来迎する様を描いた斜め立像式来迎図。諸尊は肉身、着衣ともに金泥を塗る皆金色身。肉身は朱線で描き起し、着衣には截金文様を施し、持物等には裏箔を施す。暗群青地の虚空中に、七宝宮殿と讃嘆の飛天２体を描く。

２．年代

諸尊が、皆金色身であること、截金や裏箔など金彩施工が、鎌倉後期仏画に共通していること、14世紀中期頃の製作と考えられる。

３．価値

横折れ２～３箇所、画面中央上部に縦に絹地の剝落があるが、保存は概ね良好で補彩もなく、この種来迎図として佳作と認められる。とくに図像的にみて、虚空中に七宝宮殿や飛天を配することは、観無量寿経所依の上品上生図を意図して描いたことは明瞭で、鎌倉時代来迎図の成立事情を示唆する極めて貴重な資料である。

４．管理

深正寺

資料4

○木造大日如来坐像　1軀　　度会郡南島町河内118 河内区・村山区・神前浦区

松山鐵夫、森田利吉委員

昭62. 1.26・昭63. 9. 8・平1. 3. 3　調査

1．概要

1）形状

智拳印を結び、右足を外にして結跏趺坐する。高髻。天冠台をつけ、宝冠を戴く。地髪は、天冠台下前面をまばら彫、その他平彫。白毫相をあらわす。条帛をかけ、臂釧、腕釧、胸飾をつける。裳（折り返し一段）を着す。

2）法量

像高　111.2cm

頂一顎　46.0cm	面　長　18.9cm	面　奥　24.4cm	坐　奥　58.7cm
宝髻高　20.1cm	面　幅　19.0cm	耳　張　24.7cm	膝　張　82.0cm

3）構造

ヒノキ材。一木造。頭体一材、これに両脚部横木一材を矧ぎ寄せ、腰部左右に三角材を補う。両腕は、肩、肘、手首で矧ぎ、宝髻はダボで地髪部にとめる。裳先別材矧。

両脚部底面を浅く内刳りし、これに接する体幹材底部前面も軽く刳っているが、背刳り等の積極的な内刳は施さない。

白毫、水晶（嵌入）。宝冠、胸飾、各銅製鍍金。

2．保存状態

1）後補部分　宝髻、両手肘より先、白毫、宝冠、胸飾。台座。光背。

2）後世の改変

(イ)　両耳、体幹部前面（条帛その他）、臂釧等を若干彫り直している。

(ロ)　像底部に底板状の補材があったか（現状では、尻部や大腿部側面の衣文のしまいが悪く膝もやや薄い。）

(ハ)　現在の彩色は、近年の補彩。

3）欠 損 部　背面の条帛先端欠失、左右の三角材若干欠損。

3．年代

藤原時代。作風からみて、12世紀中葉と考えられる。

4．伝来

近在の仙宮神社大日堂の本尊であったが、同堂が安政元年（1854）の津波によって罹災したため、現在地に移したと伝える。いま西方寺本尊（聖観音立像）の左脇壇に安置する。

5．備考

○修理を要する箇所

1）弛んだ矧目の緊結。

体幹材と両脚部材の矧目、三角材周辺、両肩部、宝髻等。

2）後補の彩色を洗い落とす。

（現在の彩色は、像容を著しく損じている。）

県内の指定・選定文化財（平成元年３月31日）

区分	有形									無形		民俗		史跡・名勝・天然記念物									(選定)	計
	国宝		重要文化財																					
	古文書類	考古資料	建造物	絵画	彫刻	工芸品	古文書類	考古資料	歴史資料	芸能	工芸技術	有形	無形	特別史跡	特別名勝及び天然記念物	特別天然記念物	史跡	名勝	名勝及び史跡	史跡及び名勝	天然記念物	名勝及び天然記念物	及び名勝天然記念物	伝統的建造物群	
国指定 (選定)	3	1	15	17	60	17	32	6	3	0	2	1	4	1	1	※1 0	27	2	1	0	※2 15	0	1	(1)	210
県指定			26	24	69	41	47	9	0	1	0	17	30				66	9	0	2	※3 68	1	0		410
市町村指定			103	79	151	142	147	26	4	3	6	54	80				157	7	0	1	57	0	0		1,017
計	4		144	120	280	200	226	41	7	4	8	72	114	1	1	0	250	18	1	3	140	1	1	(1)	1,633

※1　国指定特別天然記念物のうち、地域を定めず指定されている　①カモシカ　②オオサンショウウオは上の表に加えてない。

※2　国指定天然記念物のうち地域を定めず指定されている　①紀州犬　②日本鶏　③カラスバト　④カンムリウミスズメ　⑤ヤマネ　⑥ネコギギは上の表に加えてない。

※3　県指定天然記念物のうち地域を定めず指定している　①イセナデシコ　②イセギク　③イセショウブ　④オオダイガハラサンショウウオは上の表に加えていない。

二王門